

SATREPS公開シンポジウム開催のお知らせ

名古屋大学農学国際教育協力研究センター (ICCAE) は、地球規模課題対応国際科学技術協力 (SATREPS) 公開シンポジウム「アフリカにおける稲作研究の発展と展望」を2014年7月12日(土)に名古屋大学野依記念学術交流館において開催します。同シンポジウムでは、アフリカの稲作および稲作研究の現状について報告するとともに、アフリカの問題解決を出口とする新たなRice Science創出の可能性について議論する予定です。多くの大学や研究機関からのご参加をお待ちしています。

外国人客員准教授紹介

土壌の乾燥および低肥沃度条件下での安定生産を可能にするイネ有用遺伝子座の同定とその育種利用

シェリー・イシュラット・ジャハン

バングラデシュ農業大学准教授 (バングラデシュ)
外国人客員准教授 (プロジェクト開発研究領域)
(任期: 2014年4月2日~9月30日)



農学国際教育協力研究センター客員准教授として赴任でき、とても嬉しく、また光栄に思います。これまでに私は、バングラデシュのイネ品種に対して土壌の乾燥や低肥沃度耐性が付与できるよう研究に励んできました。本滞在期間中には、種々の育種手法を学ぶとともにそれを実践し、自分の技術として身につけ、今後の自国における新品種育成に向けて礎を築けるよう努力したい気持ちでいっぱいです。ストレス耐性を有する新品種の開発は、バングラデシュの農家に利益をもたらし、また食糧の安全保障に大きく貢献します。こういった国を豊かにしようとする一個人の試みや努力の積み重ねが、最終的にはバングラデシュ稲育種開発センターの設立といった大きな実を結ぶ結果に繋がると信じています。私は生涯にわたり日本の研究者との協力関係を築き、この大きな夢の実現に貢献できることを切に願っています。

略歴 1975年バングラデシュ生まれ。2001年バングラデシュ農業大学卒業、2003年同大学大学院修士課程修了、2013年名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程(後期課程)修了および博士(農学)取得。2002年バングラデシュ農業大学農学部非常勤講師、2004年同大学農学部講師、2006年同大学農学部助教、2013年同大学農学部准教授を経て現在に至る。

オープンセミナー (2013年12月~2014年5月)

回数	日時	テーマ	講師	所属
2013年度 第5回	2013年 12月5日	近世江戸時代の農業技術(農書)から途上国農村の土壌生産力を考える	林 幸博	日本大学生物資源科学部国際地域開発学学科教授
		生活改善アプローチによる途上国農村開発	水野 正己	日本大学生物資源科学部国際地域開発学学科教授
第6回	2014年 3月24日	人口の変化、社会経済条件と土壌侵食の関係: ケニアのニヤンド地方の事例	Stellah Mikalitsa Mukhovi	ナイロビ大学社会科学部校教養学部地理環境学科学科上級講師(ケニア) 農学国際教育協力研究センター客員准教授
第7回	3月24日	基礎研究 X 国際協力	芦 莉 基行	名古屋大学生物機能開発利用研究センター教授
		話題1: 遺伝子を利用したイネの改良チャレンジプロジェクト~WISH~ 話題2: イネと研究者を育てて、アフリカの食糧不足を解消する	楨原 大悟	名古屋大学農学国際教育協力研究センター准教授
2014年度 第1回	4月14日	東南アジアにおける気候変動に対応した水稲作版意思決定支援システムの開発	林 慶一	(独)国際農林水産業研究センター生産環境畜産領域副プロジェクトリーダー(気候変動対応)
第2回	4月22日	イネの好気土壌への適応性	桂 圭佑	京都大学大学院農学研究科附属農場助教